

地域おこし協力隊通信 (No. 42) 就任の挨拶

私は岩手県の花巻市出身で、家の周りは田んぼに囲まれ、夏には蛸が出ます。とてもどかで、お祭りに力を入れていた大好きな町です。しかし、「仕事の選択肢が少ない」「楽しそうに働いている大人がいない」ことを、幼い頃から悲しいと思っていました。どうしたら、田舎に魅力的な仕事を生み出せるのか。どうしたら、地域の子供たちが夢を持てるような仕事を生み出せるのか。考えてい

はじめまして。4月から中種子町役場の企画課にて、地域おこし協力隊としてお世話になっている湯目由華（ゆのめ ゆか）です。緊急事態宣言が解除され、少しずつ町の皆さんとお話しできる機会が増え、とても嬉しく思っています。皆さんとお話ししている中で、「なんで中種子町に来たの?」「地域おこし協力隊って?」と質問をいただくことがしばしばあります。今回は自己紹介の中で、その2点についてもお話しします。

地域おこし協力隊は、2009年度から総務省がスタートさせた制度で、1〜3年以下という決まった期間で、都市部の人材が地方に移住し地方自治体の委託を受けて業務を行います。中種子町は『フリー型』と言って、地域の課題や目標を自ら設定し、地域活性化に資する活動を行うことが求められます。私は、地域の課題を踏まえて自分たちで考える『フリー型』が、まさに自分のやりたいこと

くうちに、地域の課題を解決する仕事がしたい!という夢を持つようになりました。その夢を実現するため、大学では経済学を勉強し、卒業後には東京のコンサルティンク企業に就職しました。四六時中切磋琢磨している人たちに2年間指導を受け、様々な業態を経験し、起業に至るまでの進め方を知ることができました。そして、さらに地域の課題を知るためのステップを検討しているときに、地域おこし協力隊という制度を知りました。

この3年間で、より中種子町のこと、種子島のことをたくさん学んで、少しでも皆さんのお役に立つような働きがしたいと思います。熱意を込めすぎて長くなりしましたが、これからどうぞよろしくお願ひします! (由華)

だと気づきました。また、海の美しい南の島での生活に憧れがあったため、『中種子町』はぴったりの環境でした。なにより、初めて中種子に来たとき、町の人が見知らぬ私たちに挨拶をしてくださり、飲食店でお仕事されている人がとても楽しそうに働いている風景がまぶしく見えました。協力隊になって3ヶ月目ですが、この町に定住し続けたいと強く思っています。そのためには、私の夢である「田舎に魅力的な仕事を創る」ことが必要です。『3年』という任期はとても短く、全力で動かなければいけません。

『種子島飲食店マップ』を使って、飲食店を応援しませんか?

◎お問い合わせ先 中種子町地域おこし協力隊 ☎ ㊟ 1111 内線 300

4月24日に鹿児島県内に発令された飲食店への休業・時短営業要請を受けて、「せっかくテイクアウトを始めたのもっと町の人に知ってほしい」、「いつも行っているお店を応援したい」という声を耳にしました。

中種子町の飲食店のために、私たちができることはないか…と考えて、今回作成したのがこちらのアプリです。

『種子島飲食店マップ』
アプリ画像 ⇒



中種子町を中心とした、飲食店・テイクアウト情報がマップ情報・一覧から確認することができます。ダウンロードは不要です。

この『種子島飲食店マップ』は、店舗の方も食事をした方も、みんなが登録できるようになっています。もちろん、登録・利用にお金はかかりません。

現在、30店舗ほど登録が進んでいるものの、まだまだ掲載されていない飲食店・料理があります。ぜひ皆さんも一緒に、お店・料理・テイクアウト商品を登録して、飲食店を盛り上げましょう!